

事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人彩の国キッズ&ファミリー車いすスポーツ協会
活動名	車いすバスケットボール競技支援事業
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 人間分野
事業の目的	
私たちは老若男女・障がいの有無に関係なく参加できる障がい者スポーツ体験、車いす体験イベント等を運営・企画することで、参加者同士のリアルなコミュニケーション、体験をできる環境の創出が目的になっている。また、障がいのある方やこども、その家族が参加できるイベントでもあるため、障がいのある方やこどものコミュニケーション能力の向上や社会とのつながりの一助になることも目的の一つと考える。また、学校などからの依頼により、車いす体験会や障がいのあるメンバーが講演会を行っており、障がい理解や障がい者スポーツの普及に貢献することも目的といえる。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
近年、学校教育や企業の研修等でもダイバーシティや心のバリアフリーといった内容が多くなっていると思うが、実際に障がいのある方と関わったり、障がい者スポーツを体験したりといったリアルな経験ができる環境が少ない。これは、障がいのあるこどもやその家族と社会の関わりが少ないともいえる。また、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、障がい者スポーツがテレビで放映されることも多くなっていると感じているが、地域の方々や障がいのある方やこどもが、身近で障がい者スポーツに関われる機会が少ないのが現状である。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
月1回ペースで、老若男女・障がいの有無に関係なく参加できる障がい者スポーツ体験、車いす体験イベント等を運営・企画し、誰もが楽しく参加できる活動を行ってきた。具体的には、車いす操作スキルの講習、鬼ごっこのような遊びを取り入れ、車いすに慣れてもらい、そのあとに車いすバスケットを行うことで、楽しく安全に車いすバスケットを行えるようにした。また、上記の活動の他に、学校などで障がい者スポーツ体験会や障がいのあるメンバーの講演会などを実施し、当事者のリアルな声を発信し続けてきた。具体的には、なぜ車いすに乗っているのか、社会にあるバリアフリーや車いすでもできる遊びなどを紹介し、車いすが大変なものというイメージではなく、車いすでもできること、過ごしやすい社会になっていることを伝えている。こうした活動を多くの人に知ってもらい参加してもらうために、ポスターやチラシなどを配布するなど広報活動にも注力してきた。	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
月1開催の体験会では、総勢73人の参加となった。地域のご家族やこどもだけでなく、片道1時間以上かけて参加してくれる障がい当事者や福祉関係を学ぶ学生さんなども参加してくれた。また、社会福祉協議会などを経由して体験会や講演会の依頼があり、社会福祉協議会主催ボランティアイベントや小学校の授業などで多くの子どもたちに車いすやバリアフリーに触れてもらうことができた。	
体験会の開催回数:8回(1回あたり10名程度) 小学校での講演会の開催回数:3回(11/20菁莪小:38名、11/27上尾東136名、2/10上尾中央84名)	

費用面での工夫
競技用車いすを毎回、レンタルしていると、一回のイベントでレンタル費用だけでも、かなり費用がかかってしまうため、自分たちでレンタル倉庫を借りて、競技用車いすを確保することによって、コストの削減に努めてきた。
レンタル倉庫も体験会会場近くに借りることで、ガソリン代などの輸送コストも削減できている。
また、イベントの参加費を徴収しないことにより、参加者が参加しやすい環境をつくるだけでなく、白岡市勤労者体育センターの施設料減免制度を利用できるようになり、コスト面での削減につながっている。
地域社会への還元
上記にもあるが、月1の当団体主催の体験会だけでなく、埼玉県内の小学校での体験会や講演会にお声がけいただけただため、元々興味を持っていなかった子どもたちにも車いすに乗る機会やバリアフリーに関心を持てただけたのではないかなと思う。
実際、小学校での体験会でとても楽しかったからと当団体に連絡いただき、後日、月1の体験会にお友達を連れて参加してくれた子どももいた。
今後どのように事業を継続し発展させるか
現状、多くの人に知ってもらう機会が増えてきて、参加者も毎回増加傾向にあるが、当団体の賛助会員が増えていない。
当団体の運営には、レンタル倉庫の賃借料をはじめ、イベントなどの際の輸送コストなどがかかってしまう。
できるかぎり自分たちでも費用面の工夫を行っているが、当団体の会員数を増やし、助成金などに頼らなくても
安定的に継続できる団体運営を目指していきたい。
そのためにもまだアプローチしていない地域や医療・福祉系大学・専門学校等、障がい者スポーツに興味を持ってくれそうな所へのアプローチを
今後も続けていきたいと考える。

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人彩の国キッズ&ファミリー車いすスポーツ協会

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	3,042	214	△ 2,828	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	503,042	500,214	△ 2,828	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	6,400	6,400	0	
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	45,760	47,960	2,200	
消耗品費	216,742	224,160	7,418	
備品費	0	0	0	
委託費	12,140	9,694	△ 2,446	
謝金	80,000	80,000	0	
人件費	102,000	102,000	0	
その他	40,000	30,000	△ 10,000	
支出の部 合計	503,042	500,214	△ 2,828	